平成16年　3月1日　No.129
〒491-0041　一宮市文京1丁目4－6
☎0586-73-8707　FAX0586-73-8870
メールアドレス　magokoro@owari.ne.jp
ホームページ　http://www.owari.ne.jp/~magokoro/

まごころ

＝ともに生きる暮らしをめざして＝
特定非営利活動法人
尾張地域福祉を考える会まごころ
まごころ訪問介護事業所

画家・杉本健吉氏逝去

杉本健吉さんが逝かれた。

平成14年9月24日、高齢者自立支援教室の受講生25名が、美浜の杉本美術館で杉本さんと1時間程ロビー懇談をさせていただいた。当会が、一宮市から委託を受け、高齢者自立支援教室を実施することになり、考えた企画が、97歳で益々力強い創作活動をされている杉本健吉さんの絵とご本人に直接お会いするというものでした。

当日、いつもの粋なジーパン姿で飄々とユニークな話振りが忘れられない。一宮市から来ましたと申し上げると、画家三岸節子さんのことに話が及んだ。「親友だった。亡くなって淋しい」とおっしゃった。画文集の中で、長生きをしたいのではない。絵を描きたいから長生きをしたい。

2005年100歳で遺作展を開催、それを自身でみてみたい。そして、108歳まで生きたい。と、記されています。「何故、108歳ですか」と質問したら「人間には108の煩悩があるでしょう、だからだよ」「死ぬことは怖くない。寝ていて、ただ目が覚めないだけだから」と話された。何とも楽しかった。とうとう目が覚められなかった。戒名もつけられなかったときく。杉本さんらしい。

今、話題の新井満さん訳詞の「千の風」が浮かびます。

私のお墓の前で泣かないで下さい／そこに私はいません
眠ってなんかいません
千の風に／千の風になって
あの大きな空を
吹きわたっています

《報告》一宮市委託講座
痴呆予防介護講座閉講（講義と施設見学を実施）

2月25日(水)27日(金)／受講生45名（施設見学30名）

一日目は、「痴呆を知る・その対応とコツを学ぶ」と題し、ボケ老人をかかえる家族の会愛知県支部長の尾之内直美さんから、長い介護経験と相談者としての立場から、具体的なお話しをいただきました。その中から「上手な介護のコツ」について

一人でかかえこまない／知識を持つ／仲間を作る／痴呆を隠さない／健康に気をつける／頑張り過ぎない60％介護／社会サービスを利用する

また、当事者だけではなく、周りの方々の支援や一言が介護者の精神状態を大きく変え、介護を継続していく力になることを強調されました。

◆在宅痴呆介護者は仲間を作り周りは介護者に理解と言葉を

午後からは、専門医師による痴呆症について、ビデオ学習と社会サービスによる痴呆介護について学びました。

混乱が多い一人暮らしの痴呆高齢者への介護には、ヘルパーとの信頼関係をどう作り出していくかがカギであり、それには、先ず、基本的に高齢者を人として好きになり、普通の会話を自然に出来ないと信頼関係は作り出されない。

介護の一番の基本が大事だったという報告が当事業所小川サービス提供責任者からありました。

◆グループホームとユニットケア

二日目は、在宅ではなく施設介護である施設見学。痴呆高齢者対象の9人以下でのグループホーム第二大和の里を見学。ゆっくりな静かな時間が流れていました。

続いて、ユニットケアを実施されている西尾にある特別養護老人ホーム「せんねん村」を見学。

「せんねん村」は建物や環境にこだわりをみせている施設で、施設長は「残念ながら施設は施設です。家庭にはなりえません。だから、逆に施設でしか出来ないことを行っています」と言われる。

入居者の、最後まで施設でとの希望に添うために、三千坪の敷地のまん中の一番いい場所に、風とともにお送りしたいと、扉を開ければ吹き抜けていく「風の間」が設けてありました。

様々な病気や介護方法、施設等を事前に知っておくことの大切さを講座の度に、実感しています。

「まごころ」新規事業
支援費制度（障害を持つ方への福祉サービス）での「児童デイサービス」
来月4月2日から開所予定

場所：まごころふれあい広場／開所日：月・水・金・土
時間：月・水・金(午後3時～7時）土(午前10時～午後5時）

「まごころ」では、障害を持つ児童へのデイサービスを四月開所に向けて準備を進めています。かねてから、支援費制度での基盤整備が遅れていたひとつである児童デイサービスに取り組むことになりました。

街の中で
生活自立に向けて
楽しく集う

場所は、当会事務所一階ふれあい広場。誰もが普通に行き交う街の中で、しかも目の前に公園、隣は市民病院という環境が揃った場所で行います。

これまで、ご家族と学校だけのかかわりが多かった障害を持つ児童が、地域の中で、他者との関係作りができ、生活自立に向けたかかわりが持てる場所になるよう、楽しく一緒に作り上げていきたいと考えています。

向き合った小人数のデイサービスです。児童へのかかわりを長い間実践してきたスタッフや助け合い活動を十二年間にわたって参加してきたスタッフがかかわります。安心して、ご利用いただきたいと思います。お待ちしています。

No.49 チェック介護保険・支援費

◆第三者評価を受ける前に自己評価を

まもなく全ての介護現場で、第三者評価が義務づけられると言われています。

介護は、在宅でも施設でも密室に近い形でケアが行われています。サービスが適正に行われているかどうかを評価されるのは当然必要な事だと思っています。

当事業所はまだ第三者評価を受けていません。そこで、先ず、簡単に当事業所の中で、ワーカーさんからみた自身へのチェックと事業所へのチェック、さらにサービス提供責任者、管理者の自己評価を実施しました。項目にそってアンケート形式で行いましたが、思いもかけない結果もあったりして、事業所側はとても緊張、改善の参考になりました。

制度上の約束事はクリアしておりましたが、ワーカーさんの思いや、事務所対応の不備などが明確になり、改善を進めることが出来ました。また、NPO法人としての当事業所の位置づけについても、改めて理解するところとなりました。

このことは、NPO法人事業所のワーカーとして、よりよいサービス提供につなげていけることでもあります。また、この結果を定例会で明かにし、質の向上につなげていきたいと思います。やはり、第三者評価は必要だと実感しました。